



同窓会会報

第17号

平成27年11月25日

発行

鹿児島大学教育学部
同窓会

〒890-0065
鹿児島市郡元1-20-6
電話099-285-7718

編集・印刷

濱島印刷(株)

第18回同窓会総会・懇親会

平成27年度第18回教育学部同窓会総会・懇親会は8月2日ジエイドガーデンパレスにおいて盛大に開催された。

毎年、「総会を短く」という要望に添えて、議長の鮫島寛行総務部部長が腕をふるい、議事が進められた。事業報告として特記することは次の3点である。

①3つの専門部の活動が軌道に乗り着々と推進されていること。
②11月の「鹿児島大学の教育を語る会」では、今年は講演をやめ、「人間として大切なこと」についての基調提言がなされ、8つのグループに分かれて熱心な討議がなされたこと。

③同窓会総会については総務部が中心になって計画を進めた。懇親会については48年度から引き継いだ49年卒の代表者の方々と次回の50年卒の方々が連絡会で熱心に計画を立てたこと。

平成27年度第18回鹿児島大学教育学部同窓会 懇親会

その後、教育学部同窓会の使命である「後輩を育てる支援」として、台北で国際交流をした学生が体験発表をした。午後からは、49年卒生の音頭で待望の懇親会が賑々しく開催された。

出席は総会が98名、懇親会が121名であった。来年も多くの同窓生にお会いして語り合いたいです。

本年度の総会は無事1時間で終了できた。その後、教育学部同窓会の使命である「後輩を育てる支援」として、台北で国際交流をした学生が体験発表をした。午後からは、49年卒生の音頭で待望の懇親会が賑々しく開催された。



未来を拓く力を

鹿大教育学部同窓会長 石神 正明

昭和24年設置された国立鹿児島大学は、平成16年に法人組織となつて、運営の効率化・組織改革・教育改革を図り、大学機能の一層の強化の下に、現在進取の精神を持ち、困難な課題に挑戦する人材育成に取り組みられています。

その活動の更なる充実のために、鹿大「進取の精神」支援基金が設立されており、その支援活動に鹿大同窓会連合会（教育学部同窓会もその中に属する）としても取り組んでいくことにしています。

この進取の精神について、本学部同窓会では後継者育成事業として行っている「鹿児島教育を語る会」の平成24

年第11回の会では、テーマ「人間として大切なこと」進取の精神」を取り上げ、当時の学長吉田浩己先生に基調講演もいただき、学生・卒業生・教職員参加のグループ協議で深めてきました。この精神は、本同窓会の国際交流活動支援事業や人材活用事業等にも通ずるものでもあり、未来を拓く

簿作成委員の方々の並々ならぬご尽力によって作成されたものです。それを改定・追加するもので、個人情報管理も十分配慮した上で、会員の皆様のご理解・ご協力を得て行うことにしています。

二つ目は、同窓会員の心を一つにし、未来に羽ばたく親しみやすい同窓会の歌を作ることです。これまでに同窓会でお互い歌いつないできている歌は、第七高等学校造士館大正四年第十四回記念祭歌「北辰斜めに」と鹿児島師範学校校歌「武岡風」があります。かつて鹿大一般教養部は七高跡地にあり歴史と伝統を感じる地で、学生時代から「北辰斜めに」は親しんできました。また、「武岡風」は平成23年度まであった「鹿児島師範・鹿児島大学教育学部

同意を得た。また、平成30年度に教育学部同窓会20周年を迎えるに当たり、同窓会名簿第2号の発行、教育学部の歌の作成について提案がなされ承認された。本年度の総会は無事1時間で終了できた。その後、教育学部同窓会の使命である「後輩を育てる支援」として、台北で国際交流をした学生が体験発表をした。午後からは、49年卒生の音頭で待望の懇親会が賑々しく開催された。

合意を得た。また、平成30年度に教育学部同窓会20周年を迎えるに当たり、同窓会名簿第2号の発行、教育学部の歌の作成について提案がなされ承認された。

本年度の総会では、3年後に迎える同窓会設立20周年の記念に向けて協議もいただきました。一つは、会員お互いの絆を更に深めるための同窓会名簿を発行することです。現在あるものは設立当初「ま

ずは会員名簿作成から」と名

簿作成委員の方々の並々ならぬご尽力によって作成されたものです。それを改定・追加するもので、個人情報管理も十分配慮した上で、会員の皆様のご理解・ご協力を得て行うことにしています。

二つ目は、同窓会員の心を一つにし、未来に羽ばたく親しみやすい同窓会の歌を作ることです。これまでに同窓会でお互い歌いつないできている歌は、第七高等学校造士館大正四年第十四回記念祭歌「北辰斜めに」と鹿児島師範学校校歌「武岡風」があります。かつて鹿大一般教養部は七高跡地にあり歴史と伝統を感じる地で、学生時代から「北辰斜めに」は親しんできました。また、「武岡風」は平成23年度まであった「鹿児島師範・鹿児島大学教育学部

同意を得た。また、平成30年度に教育学部同窓会20周年を迎えるに当たり、同窓会名簿第2号の発行、教育学部の歌の作成について提案がなされ承認された。

本年度の総会は無事1時間で終了できた。その後、教育学部同窓会の使命である「後輩を育てる支援」として、台北で国際交流をした学生が体験発表をした。午後からは、49年卒生の音頭で待望の懇親会が賑々しく開催された。

平成27年度同窓会運営基本方針

教育学部同窓会は、平成10年に発足して本年度17周年を迎える。鹿児島大学教育学部の沿革をたどれば、1875(明治8)年に始まり140年の年輪を刻む。鹿児島大学の中で本学部は最も長い歴史に支えられている学部として、2万余人の卒業生を輩出した同窓会である。

本会は、会員相互の親睦、鹿児島大学および本学部の発展と

- 1 本県教育の振興を図ることを目的にして、今日的課題をとらえ活動してきている。さらに組織の拡充・活性化、在学生への支援、各地域の教育力の涵養、鹿児島大学同窓会連合会との連携に努め、以下の活動を推進する。
- ◆重点事項◆
- 1 組織の充実のために、各役員及び会員の積極的な参加を推進する。
- 2 学年会員同士の絆を強めるために、支部、学年ごとの同窓会の充実を図り、さらに県外在任同窓生の組織化のあり方を検討する。
- 3 会の運営を充実するため
- 4 卒業後の進路が多岐にわたる状況を考慮し、在学生への支援に努める。
- 5 「鹿児島教育を語る会」活動を通して、「進取の気風」にあふれる在学生の育成に努め、会員との交流を深める。
- 6 鹿児島大学教育学部が行う国際交流活動や大学祭等への支援事業を充実して、在学生への支援に努める。
- 7 「人材活用事業(地域の要請に応じた児童・生徒の諸指導、生涯学習等)」の周知を図り、その推進に努める。
- 8 会費納入奨励月間を設けて、会費未納者への会費納入を勧める。
- 9 本会設立20周年記念に向けての準備を進める。

平成27年度事業計画

平成27年4月17日(金)	会長・副会長・専門部長
6月下旬	同窓会費納入奨励月間
6月12日(金)	総務部会
6月15日(月)	事務局と49年卒世話係代表との連絡会
6月24日(水)	会計監査
6月26日(金)	会長・副会長・専門部長
7月1日(水)	役員会・理事会(年間事業計画・総会・懇親会関係)
7月1日(水)	役員会・理事会(年間事業計画・総会・懇親会関係)
8月2日(日)	27年度総会・懇親会
9月8日(火)	広報部会(会報17号の企画会議)
9月15日(火)	広報部会(会報17号の原稿依頼)
9月25日(金)	総務部会(総会・懇親会総括会議)
10月2日(金)	研修部会(「鹿児島教育を語る会」企画会議)
10月21日(水)	広報部会(会報17号原稿集約・編集会議)
10月下旬	同窓会費納入奨励月間
10月23日(金)	会長・副会長・専門部長
11月中旬下旬	会報一次校正作業、会報二次校正作業
11月6日(金)	「鹿児島教育を語る会」提言者事前打合せ
11月9日(月)	研修部会(「鹿児島教育を語る会」確認・準備作業)
11月25日(水)	同窓会報「第17号」の発行
11月下旬	会報3千5百部発送作業(広報部員)
12月	平成28年度学部推薦I入・編入学予定者へ同窓会案内発送
12月	平成28年度学部入学の同窓会案内発送
12月	平成28年度学部入学の同窓会案内発送
12月	平成28年度学部入学の同窓会案内発送



教育の動向

「アクティブ・ラーニング」

鹿児島大学教育学部教授 武隈 晃

課題の発見・解決に向けた主体的・協働的学びを意味する「アクティブ・ラーニング」という言葉を聞くことが多くなっています。

京都大学の溝上慎一教授は「これまで持っていた知識や経験に考えを関連づけること、パターンや重要な原理を探ること、根拠を持ちそれを結論に関連づけること、論理や議論を注意深く批判的に検討すること」などを「学習への深いアプローチ」の特徴として捉え、アクティブ・ラーニングの重要性を説いています。

このことからアクティブ・ラーニングは当初、高等教育機関における授業を深めるための方法として注目されました。(鹿児島大学教育学部キャンパスで今秋から供用が始まった新しい講義棟は通称「アクティブ・

ラーニングプラザ」です。)その後、大学教育と高等学校教育の接続、高校教育において義務教育までの成果を確実につなぎ、それを発展・向上させること、などの立場から広がりを見せています。そして何より、次期学習指導要領にこれが盛り込まれる確かな見通しから、初等教育への波及が見込まれてきています。

アクティブ・ラーニングは「特定の手法」を意味するものではありません。またこれまでこうした発想がなかったわけでもありません。「問題解決学習」、「発見学習」、「グループ学習」などの学習指導の方法を振り返れば、こうした要素を看取できます。しかし、こうした取組の「延長線上」にあると引き取ってしまうには少し無理があるように思われます。

た、来る将来のためには、子どもにどのような力を付けてあげべきなのかを模索し続けている状況にあります。

一方で学校教育に対する期待やその裏返しである保護者等の要望は、ますます強く大きくなり、個々の教師が精神的にも専門性の面でも一層努力して教師としての力量を高めることが求められています。

同窓会に出席して

県教育庁教職員課長 寺園 伸二



「北辰斜めに射すところ…」

同窓生の皆さんと歌いながら、鹿児島が日本の南の端にあることを、これほど端的に美しく表現した言葉は無いな、と感動していました。

同窓会に出席させていただいた時間は、北極星の光が斜めに差し込む、緯度の低い南国鹿児島に生まれ、育ち、こんなにも多くの先輩方に囲まれながら、この地で教育に携わることができてきたこと、のありがたさを、あらためて実感できた新鮮な時間になりました。

緊迫する世界情勢や不安定な世界経済等を背景に、教育もま

アクティブ・ラーニングは、平成26年11月の文部科学大臣諮問にある通り、「自立した人間として、他者と協働しながら創造的に生きていくために必要な資質・能力」や「何事にも主体的に取り組もうとする意欲や、多様性を尊重する態度、他者と協働するためのリーダーシップやチームワーク、コミュニケーションの能力」等を「育成すべき資質・能力」と捉え、これを育むための切り札とされていることに着目する必要があります。

アクティブ・ラーニングは一方向的で受動的な知識伝達型の講義形式の授業を乗り越える学習指導の方法を総称しています。したがって前述のような過去に蓄積のある方法を含め、体験学習、調査学習(フィールド調査、グループでの討論やディ

ベートなどによる「能動的学修」が期待されています。

しかし、高等教育はもとより、中等・初等教育における「授業の改善」に真に結びつくアクティブ・ラーニングの方法は、今後の学校現場での実践研究によって解明され、また共有されていくことになるものと思われま

同窓会に参加して

熊本 池本 武彦

久しぶりに全体の同窓会に参加した新幹線が開通し、熊本から日帰りで参加できるようになり有り難い。学生の頃は熊本から4時間余りかかったのが嘘のようにである。ところで、数年前までは、師範も含めての同窓会があり、それには数回参加していた。そのおかげで学年の同窓会を知り、その後、毎年学年会には参加している。その中で今回の学部としての同窓会を知り、副会長から案内状をもらった。同期会で会えない同級生との再会を期待して参加したが、残念ながら同期会で会った4名のみ参加であった。

来年は、熊本から数名と一緒に参加したいので、鹿児島をはじめ他の県からも多数参加してほしいものである。

今年の総会に参加して感じたことは、運営基本方針にあるように、県外同窓生の組織化を図ってほしいものである。熊

「北辰斜めにさすところ」

鹿大卒業生 鹿大卒業生 鹿大卒業生

鹿大卒業生 鹿大卒業生 鹿大卒業生

鹿大卒業生 鹿大卒業生 鹿大卒業生

鹿大卒業生 鹿大卒業生 鹿大卒業生

同窓会に思いを込めて

鹿児島国際大学実習支援課長 昭和50年卒 榎本 勝人



退職を定年退職後、鹿児島国際大学に勤務することに

り、教員を目指す学生の指導に携わることになった。若くてエネルギーが豊富な学生、教員になりたいと熱い思いを持つ学生、素直で一生涯懸命生きている学生、このような素敵な学生との出会いに私の心は躍っている。学生に伝えたいことは、たくさんある。教員としてのあるべき姿、子ども理解、生活指導、学習指導、保護者・地域との対応等、学生の成長が楽しみである。

時々、学生に自分の昔の姿を重ねることがある。先輩や同年と夜遅くまで教育について熱く語ったこと、大学祭の神輿作りに熱中したこと、どれもこれも懐かしい思い出である。あの頃の皆さん、お元気なんでしょうか。

このような時、同窓会世話役の話があったので、喜んで引き受け、早速今年の同窓会に参加することになった。同年の同窓会は、毎年決まった日に決まった場所で開催し、親睦を深めているが、教育学部の同窓会は、これまで失礼

をしており、初めての出席だった。昭和49年卒の皆さんの綿密な企画・運営のおかげで素晴らしい同窓会になった。これまでお世話になった多くの先輩や後輩の皆さんともお会いでき、感謝の気持ちを伝えるとともに、昔を懐かしみ、明日を語って楽しい時間を過ごすことができた。同窓会に参加して、生きる力をもらったような気がしている。もしかしら、同窓会には不思議な力があるのかもしれない。

来年度は、私たち50年卒が世話役を任せられた。皆、やる気満々である。諸先輩方や事務局の助言を仰ぎながら、皆さんが満足できる同窓会を目指していきたい。頑張るぞ!! 育ててくださった鹿児島大学やこれまでお世話になったすべての皆さんに感謝の思いを込めて!!

北辰斜めにさすところ

鹿児島情報高等学校 昭和49年卒 内 達夫



「北辰斜めにさすところ、大瀛の海洋々乎」

鹿大卒業生 鹿大卒業生 鹿大卒業生

鹿大卒業生 鹿大卒業生 鹿大卒業生

同窓会に思いを込めて

鹿児島国際大学実習支援課長 昭和50年卒 榎本 勝人



退職を定年退職後、鹿児島国際大学に勤務することに

り、教員を目指す学生の指導に携わることになった。若くてエネルギーが豊富な学生、教員になりたいと熱い思いを持つ学生、素直で一生涯懸命生きている学生、このような素敵な学生との出会いに私の心は躍っている。学生に伝えたいことは、たくさんある。教員としてのあるべき姿、子ども理解、生活指導、学習指導、保護者・地域との対応等、学生の成長が楽しみである。

時々、学生に自分の昔の姿を重ねることがある。先輩や同年と夜遅くまで教育について熱く語ったこと、大学祭の神輿作りに熱中したこと、どれもこれも懐かしい思い出である。あの頃の皆さん、お元気なんでしょうか。

このような時、同窓会世話役の話があったので、喜んで引き受け、早速今年の同窓会に参加することになった。同年の同窓会は、毎年決まった日に決まった場所で開催し、親睦を深めているが、教育学部の同窓会は、これまで失礼

をしており、初めての出席だった。昭和49年卒の皆さんの綿密な企画・運営のおかげで素晴らしい同窓会になった。これまでお世話になった多くの先輩や後輩の皆さんともお会いでき、感謝の気持ちを伝えるとともに、昔を懐かしみ、明日を語って楽しい時間を過ごすことができた。同窓会に参加して、生きる力をもらったような気がしている。もしかしら、同窓会には不思議な力があるのかもしれない。

来年度は、私たち50年卒が世話役を任せられた。皆、やる気満々である。諸先輩方や事務局の助言を仰ぎながら、皆さんが満足できる同窓会を目指していきたい。頑張るぞ!! 育ててくださった鹿児島大学やこれまでお世話になったすべての皆さんに感謝の思いを込めて!!

曲であったが、先輩諸氏が意気揚々声高らかに歌う姿には、我々とはまた異なる青春の思い出や歴史があることに気付かされた。

さて、担当学年の一人として、「名札係」で参加させていただいたが、世話係の先生方は事務局と密接に連携を取っておられたようである。個人的には「巻頭言」を言わせてもらい、旧交を深め、また新たな出会いが出来た極めて有意義な会であった。本会を運営されている方々の並々ならぬ努力に深い敬意を表したい。ただ、「学年担当者の次年度のリーダーが数人」という言葉に少し寂しさを感じた。誰でも気軽に参加したくなる、そんな「同窓会」になることを切に願いたい。

よき地域びと・社会人を目指す

「鹿児島県の教育を語る会」で協議

第13回「鹿児島県の教育を語る会」は、平成26年11月28日教育学部の教職員、学生、卒業生約100人が参加し、鹿児島大学教育学部で開催された。

午後4時過ぎから始まったグループ協議や午後8時終了の親睦会まで学生と卒業生が「鹿児島県の教育」について熱心に語り合った。今回のテーマは、「人間として大切なことよき地域びと・社会人として」とある。

第10回から主テーマとなっている「人間として大切なこと」については、鹿児島大学の卒業生で京セラ名誉会長稲盛和夫氏の人生指針である「人間として正しいことを追求する」という単純で、しかし力強い氏の生き方と共通している。

サブテーマの設定については、鹿児島県のへき地指定学校数は小中学校とも4割を超え、ともに全国1位である。このような実情にありながら、近年地域に溶け込まず地域を知らずに教育をしている教師が増えつつあるのではないかとという問題点が指摘されており、それらを考慮してテーマは設定された。

グループ協議

8グループに分かれて行われたグループ協議では、専修学科代表の2人が提言をし、それを基に卒業生の司会で協議が進められた。

グループで話題になったことの一部を取り上げてみたい。

- 「助ける」という心を持ち周りの人のために行動できること。
- コミュニケーション能力と技術を磨くこと。
- 「あいさつ」で積極的にコミュニケーションを図ること。
- 常に学び続ける姿勢を持つこと。
- 様々な人との関わり合いの中でお互いに歩み寄ること。
- 一人では自己表現はできないと知ることに。
- 「気付き」のアンテナを広げ、「繋がり」を持つこと。
- 自分にも他人にも素直になること。
- 思いやりと利他の心を持つこと。
- 鹿児島の人々との関わりを

教育実習を終えて

教育学部心理学専修3年



水鳥川 大輔
ついで先日、一か月の教育実習が終わり、11月28日(土)に鹿児島大学教育学部で卒業式が行われました。

の実習では多くの経験をすることができました。まずは何より、子どもたちの前で授業をしたということ。今まで大学で学んできた知識を生かした授業を計画し、それを実際にやることで、自分の省みなければならぬ点に気づくと同時に、自分でも子どもたちの前に立つて授業ができるのだという自信にも繋がりました。次にとどのよう

将来の夢

教育学部技術専修4年



後口 陽成
私には中学時代から持ち続ける、ぶれることのない夢があります。

それは、「技術科教員」になることです。その夢を叶えるために鹿児島大学に入学しました。入学してから早、3年半の歳月が経ち、学生生活も残りわずかとなりました。中学時代は、ただ漠然と「技術科教員」になりたいと考えていました。今では、「子どもたちに『ものづくり』の面白さを伝えることのできる教師」になりたいという具体的な目標があります。その目標を叶えるため、高校時代には資格取得に励み、電気工事士をはじめ、国家資格7つを含む、約20の資格を取得し、専門的な知識や技術を身につけてきました。さらに大学では、技術科に関する専門性の向上は勿論のこと、小学校からの連続性や系統性、家庭科などを関連させた、技術科の授業構想及び実践力の向上を目指し、小学校・家庭科・高校工業の免許取得を進めてきました。

台北短期研修

教育学部美術専修4年



高木 杏樹
今年3月、私は台北教育大学に10日間、短期研修に行きました。

過去に何度か海外旅行を経験したことはありましたが、10日間も見知らぬ土地に滞在したことはありませんでした。わくわくしていた反面、不安もありました。実際に行ってみると、台湾はとても素敵な所でした。建物も日本と違って刺激的でしたし、食べ物も日本人に割と合う味でもおいしかったです。中でも一番驚いたのが、普通に台湾の方が日本語で話しかけてきたことです。大学で中国語も学んで、実際に現地ですることがすごく嬉しかったし、異国で異国の言葉を使って通じたときの喜びを持ってこういふことなのかなと身を持って実感することができました。

美術科同窓展を終えて

第8回鹿児島大学教育学部美術科同窓展

実行委員長 中西 昭郎 (昭和51年卒)

平成27年6月23日から28日まで鹿児島市立美術館で「第8回鹿児島大学教育学部美術科同窓展」を開催しました。

本展覧会は教育学部美術科で学んだ卒業生を中心にお互いの親睦と研修、さらには本県の教育・文化の振興を目的に平成6年に第1回展を立ち上げ、以後概ね3年おきに開催を続け8回目を迎えました。

開催にあたっては、実行委員会を中心に計画を進めてまいりましたが、各方面で活躍されている多くの卒業生のご支援をいただくことができました。さらに現役学生の皆さんも、搬入・搬出や飾り付けに駆けつけ、卒業生と在校生との一体感も生まれました。

今回の展覧会へは、卒業生だけでなく美術科の先生方や学生の出品も含め、幅広い年代の方々100人から135点の作品が寄せられました。会場には平面や立体の作品とともに映像や研究成果、自分の仕事の紹介など多岐にわたる作品が並び、来場された方からも高い評価をいただきました。

また今回は作品のキャプションに思い入れの写実も添えられ、出品者の学生時代の若き横顔や昭和30年代・40年代の懐かしい旧美術科棟の写真を前に楽しそうに談笑される方々の姿も多く見られました。

会期中は梅雨のため生憎の天候でしたが、多くの方々にご来場いただき所期の目的を達成することができました。



編集後記

広報部の不手際にも関わらず原稿執筆者の皆さんが締切にきちんと提出してくださって、会報17号が予定通り発行できることに感謝の念でいっぱいである。

同窓会は新会長のもとで、慣れない役員も後輩を育てる事、同輩との絆を強くするための手伝い等に全力で取り組んでいる。総会も懇親会も軌道に乗ってつづいて。誘い合っ

て同窓会でお会いしましょう。また、同窓会のホームページもぜひご覧ください。広報部(有馬暢洋、林賢一郎、川内野一彌、川村君子、後藤千和子、西ゆう子、文城テツ子)

交流の夕べ



グループ協議の後、場所を教育学部生協食堂「エデュカ」に移し、交流の夕べ(懇親会)が開催された。

グループ協議の後、場所を教育学部生協食堂「エデュカ」に移し、交流の夕べ(懇親会)が開催された。

ノンアルコールでおでんの鍋をつつき、盛り合わせ等を食べながら、後輩の夢や希望、先輩の経験などが語られ、会員相互の親睦が図られた。

(研修部・東 寛治)